

多摩デポ通信 第8号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2008年11月1日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一三二-一八

●HP / <http://www.tamadepo.org>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

る提言と言って過言ではありませぬ。取りまとめの中心をされた東村山市立図書館長木村稔氏にお越しいただき、報告書の内容やその意義、報告書への思いなどを伺います。会員外の方も含め、みなさんお集まり下さい。

資料の里親探し」などの活動を多くの方に訴えたいと考えています。28日には簡単な発表トークも行う予定です。図書館総合展にお越しの方はぜひ、ポスターセッションもご覧下さい。詳細は次のとおりです。

東京都市長会は2006年11月に『広域連携の勧め』という報告書を出し、その中で、

まとめた調査報告書を今年3月に出しました。

広域連携事業の一つとして〈図書館資料の広域的保存〉

市長会の助成を受けて出されたこの報告書は、私たちが実現を切望する共同保存図書館の可能性・方向性を左右す

この提言を受

この提言を受けてとめ多摩地域の公立図書館長で組織する「東京都市町村立図書館長協議会」は広域連携の中で行うべき共同利用図書館の具体的なあり方を

この提言を受

第3回 多摩デポ 講座

『多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書』を読む

東京都市町村立図書館長協議会
共同利用図書館検討委員会
元委員長 木村稔館長に聞く

12月 14日(日)

午後2時～4時30分

会場：立川市中央図書館
4階会議室

「多摩デポ」図書館総合展 ポスターセッションへ参加

11月26日(水)から28日(金)、横浜市の「パシフィ

コ横浜」で第10回図書館総合展が開かれます。会期中ポスターセッション(展示パネルを使って活動を紹介するプログラム)に「多摩デポ」も参加します。現在、パネルの準備を進めています。

めざしている共同保存図書館の内容、行ってきた講演会・学習会の紹介、「図書館

第10回図書館総合展 ポスターセッション

・期間：11月26日(水)

～28日(金)

午前10時～午後6時

・場所：パシフィコ横浜

・ポスターセッション会場：

展示ホールB

・セッション口頭発表会：

28日午前10時30分から

第7会場にて

総合展詳細情報：

<http://www.j-c-c.co.jp>

第二回多摩アポ講座 たましん歴史資料室で開催

9月14日、「地域資料の収集と保存―たましん地域文化財団歴史資料室の場合―」と題して歴史資料室室長の保坂一房さんによる、講演と見学の会を行いました。

「たましん地域文化財団歴史資料室」は、国立駅南口駅前にあります。多摩の情報を長年収集して地域情報の宝庫であり、『多摩のあゆみ』の刊行を通して地域情報の発信と多摩のシンクタンクとしての役割を果されています。多摩地域の図書館にとっても、頼りになる存在です。

保坂氏から「たましん地域文化財団設立の経緯」「『多摩のあゆみ』創刊の事情」「歴史資料室所蔵資料の概要」「『多摩のあゆみ』の編集」

「たましん地域文化財団ホームページの紹介」の五点についてのお話をいただいた後、歴史資料室と所蔵する資料の見学となりました。

『多摩のあゆみ』は現在は「たましん地域文化財団」が発行している季刊誌で、1975年11月に多摩中央信用金庫が創刊しました。最新号は131号です。

保坂氏は創刊号で多摩中央信用金庫理事長が書かれた、「地域金融機関としての業務を推進するに際しましては、私も役員一同が地域の生活、産業、文化、またその歴史につきまして、関心を深め、これを謙虚に学ぶという不断の心掛けをもって参る必要があります。」を示し、メセナが盛んになる以前の75年にこういう業務を始めたのは非常に先見の明があったのでは



ないかと指摘。もともと信用金庫自体が、ある一定の地域に限定した業務内容になっているために「茶の間の郷土史」という基本スタンスは三三年間変わることなく、今も常に心掛けているとのこと。たとえ同テーマで特集を組んでも、時代と地域の変化にに応じて、繰り返し視点の異なった記事を構成できる、との確信に満ちたお話がありました。

また「たましん地域文化財団」では、毎年、多摩交流センターとの共催で「多摩の歴史講座」を開催したり、財団内でいくつかの小研究会を行ったり、図書館や博物館との交流を進めたりしておられるとのこと。それは多摩地域が今後も発展していく支えになるうとしている、地域金融機関の理念をも示しているように思いました。

歴史資料室に所蔵されている資料は、図書、雑誌以外に地図1600枚、伊与田昌男コレクションを含む写真33540点、チラシ・ポスター・タウン誌・郷土かるた・お店の包装紙やパッケージなどまであります。いずれも丁寧に整理されており、参加者は図書館ではなかなか所蔵できない資料群を、時が経つのも忘れて見入ってしまった。

多摩デポ講座感想

矢田部富子

元調布市立図書館

かつて、多摩信用金庫は調布に進出する際に「多摩地域の人人々に愛される、なくてはならない多摩地域の信用金庫を目指して」いた。そのことばどおりに、「多摩のあゆみ」を刊行された。掘り起こされることは知らないことばかりもしくは目からうろこの新発見。感動の冊子であった。その感動の基を担当された方々は、刊行までの経緯、刊行継続の苦勞、それらを「楽しんで携わってきました」と言い切られた。

日本の金融界の一端を担うべく夢と希望に燃えておられたばかりの方たちの「今、多摩地域の歴史資料を保存しておかなければ」という心意気に、

思わず己の来し方を振り返ってしまった。

資料は独自の分類ですと言われたが、見やすい。多摩地域を対象とした雑誌の収集は素晴らしい。今は廃刊になってしまった京王多摩文化会発行の資料や京王風土記など、なつかしい発行物に出会えた。市ごとにきちんと分類された資料も見事に見やすくファイルされていた。菓子の包装紙も保存されており、捨てるものは何もないことを痛感。

どこも保存場所に苦慮しているのは同じだが、廊下に二重式のスライド書架を配置して、資料がこんなにも保存されてきたことが、何よりも嬉しかった。多摩の刊行物や調布市のファイルなど、目を改めてゆっくり拝見に伺いたい。心豊かな時間を過ごさせていだいた。

書庫訪問 連載①

たましん歴史資料室

『多摩のあゆみ』に毎号載る「入手資料のごあんない」、あれだけ大量に送られる資料をいったいどこに収蔵しているのだろうか？というのがずっと気になっていた。今回、デポ講座の第一回がたましん歴史資料室の紹介ということで書庫を見学する機会ができた。

保坂氏が「通称ウナギの寝床と言っているんですよ。」と

笑いながら案内して下さった書庫は、その名のとおり細長い廊下のような部屋で、壁際に扉つきの戸棚が並び、開けると中にはぎっしり資料がつまっている。棚の上にも資料がいっぱいだ。

決して恵まれた書庫状況ではないが、狭い「ウナギの寝床」は、文字どおり宝の山、多摩地域の市民、研究者、図書館にとっては貴重な資料ばかりだ。

ここの他に、閉鎖した支店の空き店舗を書庫スペース（西国分寺倉庫）として、『多摩のあゆみ』のバックナンバーや生原稿など保管しているとのこと。

(田)



第二回多摩デポ講座報告 「昔の地図を編集し、土地 の歴史を読む―国分寺市の ことを一例としながら―」

事務局 堀 渡
国分寺市立図書館

出版社榊之潮の芳賀啓氏による講演と街歩き案内が10月5日(日)行われた。

定刻午後二時の少し前、国分寺労政会館第一会議室に、芳賀氏は二つの大きなトランクを転がしながら入ってこられた。トランクの中にはパソコンや参加者への配布物、会場展示の地図編集出版物や二千五百分の一の東京都地形図(JR国分寺駅南口周辺の部分)などいっぱい。

パソコンには、この日のため用意されたパワーポイント用データが120枚以上。

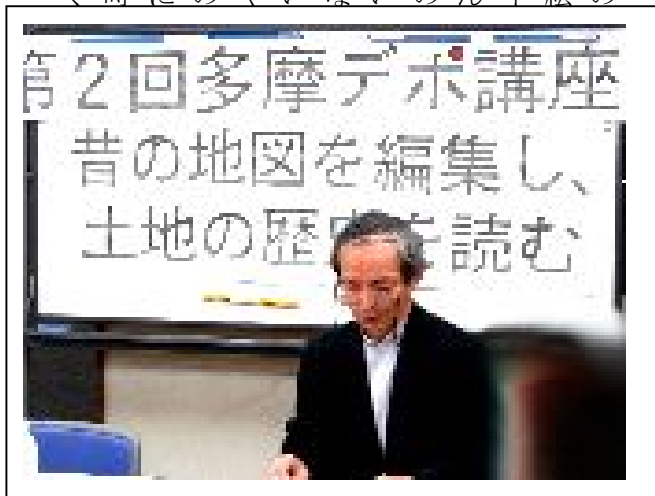
次々とプロジェクター画面を変えながらの講演でした。

当日の演題は、プロジェクターで投影された一枚目ではもう少し格好よいものに変更されておりました。メモを取らなかったで、申し訳ありませんが紹介できません。以下、当日に芳賀氏が話されたほんのさわりを紹介していきます。

古い地図というと、今の技法とは違う江戸時代の絵地図のようなものだけがイメージされがちだが、疎んじられがちな最新版以前の地図はひっくりかえって「古い地図」と呼びたい。古くあった地図は現状を写していないものとして破棄されやすい。実用面からは仕方ないことだが、古い地図に注目することで、発行当時の土地の実情に迫っていく

ことができる。文字による記録に比べて地図の情報量は大きく、じっくり読み取って調べ得るものは多い。

古い地図の中でも、等高線やささまざまな地図記号の入った地形図に注目したい。それも国土地理院が作っている五万分の一、二万五千分レベルではなく、もつと縮尺率の小



さい地形図が重要だ。描かれる範囲が狭いことで幹線道路と大きな集落だけでなく、微妙な土地の高低差や水路、水路跡の窪み、詳細な土地利用などが描き込まれている。そこには製作当時の人間の暮らしが記録されている。

例えば、東京都は二千五百分の一地形図を何度か作っている。国分寺市全域をカバーするには九枚かかる。さらに大変貴重なものだが、都立多摩図書館には、多摩地域については、全域ではないが昭和30年代の三千分の一地形図もある。二千五百分の一地形図の等高線は一メートル毎である。発行年の違う同地域の地形図を集め、重ね合わせる。当然ながら当時の微細な土地利用が見比べられる。日本の地域の大変貌は、一般的には明治維新でもなく空襲のあつ

た第二次大戦でもなく、戦後の高度成長期だと言われている。事実、等高線の微細な入り組みや窪地がなくなっている。ブルドーザーなどの重機に平らにならされながら、人工的な基盤の上に土地利用が激しく進んできている。

（株）潮で04年に編集発行した「多摩地形図」がある。日本帝国軍が製作した五十分の一の極秘地図を時間をかけて集め一冊にした。地図の製作年は昭和17年から19年である。軍事施設の白抜きが生々しいが、高度成長期の変貌に比べ、以前の自然地形をはるかに留めている。

こうした説明をされながら、芳賀氏は国分寺駅南口周辺（講演会場もその中に含まれる）の地形図を次々と映写された。JR中央線の直線的な切り通し、古い多摩川の後退

の跡である国分寺崖線、崖線近くの湧き水を水源とする一級河川の野川。これらの基本図式はどれも変わらない。それどころか、等高線が二十メートル毎の五万分の一地図ではたつた一、二本の線でしかない国分寺崖線が微細なひだとなつて現れて見える。近年になるとのつぺりと整地され、建物の密集が等高線を隠す。（芳賀氏は宮城県沖地震時の地すべりや家屋倒壊の話などをされた。）

私は、労政会館のJR線路寄りにあつた国分寺町立小学校を卒業したのだ、と言われている。戦末期の「多摩地形図」には、四角の空き地と〈文〉の記号。それが確かに昭和30年代の地形図では消えていた。南南東に七百メートルほど離れて現存の、

国分寺市立第一小学校はその間に移転したのだろう。地図の情報量は改めてすごいと思つた。（図書館のようだ）

芳賀氏はそのほか、復刻古地図と称する出版物の中には別の年代の地図を貼りあわせ、たマガイモノがあることを、丁寧に図示しながら示した。大変驚いた。地図の信頼性があればこそ、そこから当時の地域の人間の営みが見える、という芳賀氏にとつて古地図の改竄は（そしてそれを信じてしまう利用者の発生は）、苦いことだろう。

この〈国分寺駅南口周辺〉は、作家以前の村上春樹がジャズ喫茶をやつていた場所。椎名誠がデビューエッセイ「さらば国分寺書店のおぼば」で描いた「おぼば」のいた場所。そして関西フオークの名曲「プカプカ」などを歌

つた中山ラビの「ほんやら洞」の（いまも）ある場所。三億円事件の東芝工場と府中刑務所に近く秘密捜査本部もあつたという場所。地形文学の代表作「武蔵野夫人」で大岡昇平が、水源の泉だけでなく崖線の湧き水から補水し続けながら崖線下で流れを作っている特徴を繰り返して語っている、その野川が野川になつていく場所。60年代末の日本版ヒッピー、〈部族〉の名残がある場所。そんなことも「土地の記憶」としてスナップ映像を映しながら話された。

たいがいのことをうつつら見たり知つたりしていたつもりの私も、「エッセイ『村上朝日堂』の記述から推定するに村上がかつて住んでいたところはここだろう」と示された場所の偏奇ぶりには脱帽。いわば西武線と中央線という二

つの水路の突端の岬である。
(いったいどうやってあそこ
に行けるのだろうか?)

芳賀氏は、労政会館での講
演は四時前にはあつまり切り
上げて、街に出て南口周辺を
一時間ばかり案内された。地
元の者にもナルホドと思う、
楽しいブラブラ歩きと発見の
時間であった。推奨の焼き鳥
屋には是非行こう。ゆとりと
楽しみを大事にしながら、地
域の記憶装置としての図書館
の存在を見つめ直そう、と私
は思ったのでした。

講演参加32名、(そのうち
図書館員およそ15名)街歩き
参加26名、懇親会14名。

過去—現在—未来をつなぐ

地図・編集者・図書館

国立市 藤村せつ子

地図が語る事実(Ⅱ過去の

声)に耳を傾け、使う人に配
慮した編集をほどこし、一冊
の資料として世に送り出す—
芳賀さんの出版人や編集者と
しての眼、真摯な仕事の裏に
ある志や想いの深さがお話か
ら伝わってきました。

また、「ここにはどんな歴史
や風景があったのか」を昔の
地図で知り、文学作品で読み、
実際に歩いて感じるこの面
白さにもふれた一日でした。
一つの資料によって、ある
時点での現在が記録・記憶さ
れ、それをつくる人、使う人、
残す人が続くなかで、過去と
現在が対話できること。未来
に向けて残す人、つなぐ人
である私たちは何ができるか
等々……。

あらためて、資料のもつ意
味、図書館の役割をも考える
ことができたように思います。

図書館資料の里親探し —資料の再活用事業

スタート—

多摩デポは、共同保存事業
に先駆けて、資料の再活用
事業「図書館資料の里親探し」
をいよいよ7月10日に開始し
ました。

▼「図書館資料の里親探し」 事業 成立／第1号／

里親探し事業の開始のお知
らせを市町村立図書館に出し、
多摩デポのホームページに掲
載して間もなく、「里親になり
たい!」との申し込みメール
が届きました。

差出図書館は、新館建設間
もない檜原村立図書館。『現
代日本文学大系』全97巻 筑
摩書房 を入手したい。
早速、当会会員のいる館に
調査を開始したところ、調布

市から「希望があるなら、差
し上げられるかも。」との声を
いただきました。

▼調布市から檜原村へ

「美本ですが第34巻だけ欠
なっています。それでもよ
ろしければ」という申し出か
ら、とんとん拍子に話が進み、
調布市での払出し手続きを済
ませて10月24日、理事長の
運転する車で里親のもとへお
届けしました。

▼調布市立図書館染地分館 の事情

開館から28年が経った染
地分館は、都営住宅の一階に
地域福祉センターとの併設。
占有面積約300㎡で4万冊の
蔵書能力があり、地域柄、子
どもたちからお年寄りまで幅

広い年齢層の方に愛用されている図書館です。書架は既に一杯。1日2回市内を巡回するメールカーを活用することで、市内全館の蔵書を意識した新鮮な蔵書構成に努めておられる様子が伺えました。

今回は、利用頻度がそれほど高くない、中央館に全巻揃っている『現代日本文学大系』を除籍しようとしているところでした。刊行されてから30年以上経つのですが取扱が丁寧なため美しく、どこかの図書館で活用してもらえたら嬉しいとのことでした。



▼檜原村立図書館の事情

都立多摩図書館から「移動図書館むらさき号」を譲り受け、村内を土・日に運行することから始まった檜原村の図書館は、今年ついに新館が完成し、4月にオープンしたばかりです。

まだ余裕のある書架には、「図書館の基本図書を充実させていく課題がある」とのこととで、まずは現在の流行作家

だけでなく高齢の方にも馴染のある作家の作品を揃えたいという今回のご希望でした。



檜原村では、これから他の分野も徐々に揃えていきたいとのこととです。「〇〇のシリーズの里親になってもらえないか？」とのお声かけをお待ちしています。

(雨谷)

ありがとうございます。
これからもヨロシク!!

檜原村立図書館

永田治代

東京の西の一番奥に位置する檜原村。ここに図書館が誕生して16年が経ちます。スタート時は都立のBM車”むらさき号”と、職員の皆さんにお世話になりました。昨年の4月にやっと電算化され公共図書館の仲間入りが出来、多くの図書館に助けられて今までやって来えています。

新しい図書館ですので蔵書に満足のいくものではありません。

図書館にあるべき基本的な資料、またロングセラー作家の文学書が少なく何とかしたいと思っていた矢先にNPO共同保存図書館の里親探しのお知らせが目にとまりました。

これは…と思い早速、筑摩の日本文学全集を探して欲しい旨のメールを送りました。一ヶ月もしない内に”なんとかなりそう”という連絡をいただきました。こんなに早く現実になったとは。

書架の場所はとるけれども年に数回しか手にとってもらえないかもしれないけれど、でも必ず欲しいものでした。本当にうれしく配架の棚も決めて待っていました。

先日、理事長の座間さんをはじめ雨谷さん吉田さんが本を届けに来てくださいました。蔵書コーディネーターといわせていただきたい吉田さんが真剣な目で書架を回ってくださいました。座間理事長には図書館の在りようのアドバイスをいただきました。

今回は調布市立図書館からいただきました。ありがとうございます。

ございます。早速「装備」に入っています。

これからまだまだNPO法人を通じて、多くの図書館にお世話になる事と思います。復本が出たら、檜原村立図書館を思い出してください。

ありがとうございます。これからもよろしく!!

図書館資料の里親探し

— 図書館からの応募を待ちしています

多摩地域公立図書館へは既に事業開始のご案内を送り、眠っている・置けなくなっている貴重な本の応募、図書館として探している本の応募をお待ちしているところです。

事業の詳細については、多摩デポのホームページをご覧ください。

図書館資料再活用

仕分け作業ボランティア

9月10日、25日の両日、館長協議会の呼びかけで標記の作業が行われた。昨年12月に引き続きのもので、十進分類法の0類（総記）と、行政資料一万冊余りの資料をリストと突合せ、通し番号の付箋をばさんでいく作業だ。

会場の武蔵野市図書交流センターの職員の方々が事前の作業をかなりやって下さったので、各図書館からの参加人数も縮小したという。わが多摩デポからは、吉田徹理事と田中の二人が参加した。

今回の作業で、懸案の〈五万冊〉の仕分けが一応済んだわけだが、「利用」にむけてのデータ作成など残された課題は多い。今後も多摩デポとして何らかの形で協力していけ

たら、と思う。(田中)

会の現勢

● 会員

(個人会員) 96名
(団体会員) 3団体

● 賛助会員

(個人) 28名
(団体) 2団体

〓 08年10月30日現在

旧「共同保存図書館・多摩」の会員で、まだNPO法人会員へ移行していない方はぜひ、「特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩」へ、会員登録をお願いします。今号「多摩デポ通信」は、旧組織の会員の皆さまにもお送りしました。

※ 年会費

・ 正会員 (個人・団体)

五千元

・ 賛助会員 一口一千元

(個人一口以上 団体五口以上)